

【上野が丘公民館（第7回）】路線バス利用者説明会 会議録

1 日 時	令和7年4月21日（月曜日） 19:00～20:15
2 会 場	上野が丘公民館 大ホール
3 出 席 者	●上田バス株式会社 川端上田営業所長 ○上田市 佐藤都市建設部長、横沢課長、坂口補佐、木角
4 参 加 者	15名
5 会議概要作成年月日	令和7年5月19日
協 議 事 項 等	

1 開 会（上田市 交通政策課 横沢課長）

2 あいさつ（上田市 都市建設部 佐藤部長）

3 地域公共交通利便増進事業について（上田市 交通政策課 坂口補佐）

4 交通事業者の現状について（上田バス株式会社 川端上田営業所長）

5 質疑応答

●参加者

- ・以前、市長宛てで交通政策課へお願いをしたが、真田から下原、大屋を経由し鹿教湯に至る路線の設置はまだ達成できないのか。
- ・先日、下原、大屋間を回送で走っているバスがあったが、こういった無駄を有効活用できないのか。
- ・真田方面から丸子方面へ向かうには必ず上田駅を経由する必要がある、時間が余計にかかってしまう。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・運転手の労働時間規制等があり、現状の路線バス17路線を維持するだけで難しい状況である。
- ・実際、そのような状況を受け、昨年4月に減便を実施した。
- ・配布資料のスライド番号17ページ目に利用者数が多い上位5路線を列記させていただき、上位の鹿教湯線、青木線で減便が実施されており、20時台の便がなくなっている状況である。
- ・その中で、高校生が塾や部活を終えた後の交通手段がなく、親御さんが迎えに行かなければならない状況が発生している。
- ・我々としてはこの20時台の便復活をまず最優先するべきだと考えており、運行事業者へ検討をお願いしているところである。
- ・まだ確約はいただいていないが、いずれにしろ運転手の確保次第というところである。
- ・市長宛てにお手紙をいただいたことも承知しており、その他にも路線バスを新設したらどうかというご意見もいただいているところだが、まずはどこを最優先にして実施していくべきかを検討した中で、20時台の復活や路線の見直しができることを最優先に行っていきたいと考えている。
- ・路線の新設となると、経費を誰が持つのかということから始まり、国の認可も受けなければならない話であり、慎重に検討していく必要がある。
- ・利便増進事業も完璧なものではない。まず10月から実施できるものを行っていき、その後できることは随

時検討していきたいと考えている。

⇒●参加者

- ・はいそうですかとはいかない。
- ・一旦やってみることはできないのか。実際に困っている住民や学生がいる。
- ・上田駅の温泉口へ 20 時台に行くと青木村の村営バスが待っている。青木村は通勤、通学の方のために工夫をしている。
- ・上田市でもマイクロバスであれば市の職員でも運転できるが、そういった対応を考えることがあるのかどうかも伺いたい。
- ・事業者だけに頼らずに、市の余剰人員でやる方法はないのか。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・青木村では、村で村営バスを所有しており、運転手も非常勤で確保している。
- ・その方たちは日中、村のデマンド交通を運行している。
- ・上田市はそもそもバスを持っておらず、運転手も雇用していない。
- ・上田市で何とかするには、運転手を一から雇用する必要がある。
- ・事業者が努力している状況なので、まずは事業者へお願いをしていくというのが我々のスタンスである。
- ・まずやってみるという話もあるが、運輸局への許認可等も必要になってくる。

⇒●参加者

- ・テストケースでやるのであれば、市独自で可能ではないのか。行政は柔軟に対応できないのか。
- ・丸子修学館高校は昨年度の生徒数が約 600 名であったが、そのうち真田、菅平、五中、一中エリアから通学している生徒が 30%いる。
- ・通学するには既存のバス路線の利用、親の送迎もしくは自転車となる。
- ・また、バスについては雨の日などは利用者が集中し、時間帯によっては乗れない場合もあり、親が会社を休んで送迎しなければならないという状況が何年も前から発生している。
- ・地域の交通の便によって、学生の通学が制限されるということは甚だ疑問である。
- ・一部の時間帯だけでも、青木村のような工夫をやったらどうか。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・運行については安全第一であり、そのために二種免許取得制度や路線バス事業者が存在している。
- ・やってみるということは確におっしゃるとおりかもしれないが、安全性の確保が第一であるため、そのあたりも加味しながら検討する必要がある。
- ・3 月にギャラリーバスという千曲バスの車両へ高校生の作品を展示するという取組を行い、その際に、公共交通をご利用いただいている生徒に集まっていただき、座談会を開催した。
- ・他の高校でも座談会を開催し、利用者の意見を聴いていきたいと考えている。

⇒●参加者

- ・各高等学校でバス利用者にアンケートを取っているため、登下校の時間も把握できると思う。
- ・上田市でも今後 DX を加味してやっていくということなら、リアルタイムで実施できる方法を考え、無駄なくバスを運行する必要がある。
- ・実際に困っている人がいるということを念頭に置いてサービスをやってもらいたいと思う。